

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300204
法人名	医療法人 社団 親和会
事業所名	グループホーム きんもくせい ユニット名 さくら
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字勝野4202-7
自己評価作成日	平成26年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年10月27日	評価結果確定日	平成27年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様1人1人の生活ペースを重視し、安心安全で1日をゆったりと過ごすことができるようにしている。筋力維持のため、個別の生活リハや、体操を実施したり、季節ごとの行事を計画して、利用者様全員が気分転換出来て楽しんでいただけるようにしている。運営推進会議で、利用者様の毎日の生活ぶりや行事報告を行い、ホームの行事や地域行事の情報提供がなされ、サービスの向上に生かしている。また、外部研修会に参加し、ホーム内で伝達講習を実施し勉強している。また、月1回避難訓練をして災害時スタッフ全員が動けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

協力医療機関や隣接する同法人施設との連携は、日常の健康管理や医療ニーズへの対応、災害対策等に活かされ、入居者、家族の安心感へとつながっている。日々の関わりは、暮らしの場所であることを大切にされた柔軟な対応が印象的であり、単にリスク回避のみを優先することなく、個別のより良い暮らしの継続に向けて、管理者、職員は検討を重ねている。気の合う方同士が居室のソファで過ごすことが日課であったり、推理小説を読む方、裁縫道具を大切に所持する方等、何気ない日常を支援している。現在、センター方式を活用した情報の集約にもあらためて取り組んでおり、家族や地域との連携や普通感覚を大切にしながら、専門職としての研鑽を重ね、本人本位に基づく実践に結び付けようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のホームカンファレンスを行い、その都度、職員が声に出して理念を読み上げ、理念の大切さを再確認している。	地域密着型サービスとしての基本理念や運営方針を掲げ、これまでに理念の再構築に取り組んだ経緯もある。カンファレンスの際には交代で理念を読み上げ、文言だけではなく、実践に結び付けていくことを重要視している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事に参加したり、地域のサロンへの参加をしている。ホームだよりを近隣に配布し日頃の暮らしぶりを広報している。週に1回又は2週に1回ボランティアの方に来て頂き書道やカルタ、読み聞かせをして頂いている。	町内会に加入している。書道やかかるた、読み聞かせ等、地域の方がボランティア講師として訪れている。隣接する同法人施設との交流や、いきいきサロンへの参加の際には、自然体での認知症啓発も意識している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロン等へ参加したり、ホームへ来ていただき、地域の方々とはふれ合い、認知症の方への対応方法など、見て感じていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状態やサービスの取り組み内容を報告し、意見交換やアドバイスを受け、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議には、入居者代表、複数の家族、地域代表、民生委員、町役場職員の出席を得て、2ヶ月に1回、定期開催されている。議事録は掲示され、今後は参加メンバーの更なる充実も視野に入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り合い、事業所の実状やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には、町役場担当者の出席を得ている。また、小竹町グループホーム連絡協議会や徘徊SOSネットワーク等の活動を通じて、行政や地域包括支援センターとの連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に拘束しないことを意識し、言葉かけなども含め、問題になる行為をしない様に努めている。玄関の施錠もせず、自由に入出入りできるようにしている。	内部研修では、行動制限や精神的拘束、ストレスケア等について取り上げ、職員の意識や理解を深めている。また、家族とも共有認識を育みながら、個別のより良いケアについて検討している。日中、玄関の施錠は行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送り等で伝え、常に介護時の対応に気を付けるよう徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会での資料を活用し、玄関に置いて、スタッフが成年後見制度の手引きを閲覧できる様にしている。	成年後見制度に関する研修資料を閲覧可能とし、今年度は主に日常生活自立支援事業について学ぶ機会を持っている。	運営推進会議の中で、関係機関との連携による説明の機会を持つ等、権利擁護に関する制度について、家族や地域に向けた情報発信を行うことも期待されます。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載した内容を契約時に説明し、分からない点などは再度説明して、理解・納得した上で契約の同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置したり、こちらから家族に働きかけ、意見などが発言しやすいような雰囲気作りをしている。	家族会としての活動はないが、年2回、家族との合同行事を企画し、今年度はバラ園等に出かけている。家族が意見を言い難いことを理解し、コミュニケーションを重ねながら、意見や要望を言いやすい関係作りに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホームカンファレンスで職員からの意見や提案、問題点などを聞く機会を設けている。	定例のカンファレンスでは、職員の意見や提案を求め、実際に物品発注の工夫等、業務に反映されている。職員の個性やアイデアを検討し、風通しの良い職場環境となるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会・ホーム内での勉強会を開催し、職員各自が向上心を持って働けるように努力している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢・性別の制限はなく、人柄や意欲を重視している。事業所で働く職員に対しては、交代で昼休みをとったり、月2回の希望休の配慮をして、生き生きと働ける環境を整えている。	職員の採用にあたり、人間性を重視し、年齢や性別等による排除は行っていない。法人として、資格取得や外部研修参加を奨励し、個々のスキルアップをサポートしている。風通しの良い職場環境に配慮し、職員の個性の発揮やアイデアの反映等、職員の能力や日頃の努力を評価し、モチベーションの確保につなげている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会や毎日の申し送り等で人権に対する意識を共有し、人権を尊重し、穏やかで楽しい暮らしが出来るように支援している。	内外の研修参加を通して、様々な視点から入居者の人権について意識を高め、職員間で共有認識を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて外部への研修へ参加し、その度伝達講習をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小竹町のグループホームの集いに参加して意見交換したり、福岡県グループホーム協議会の研修・社会福祉協議会の研修に参加してサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に困っていることや不安がないか、出来るだけ話を聞く機会を多く持ち、対応できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や契約時、家族が困っていること、不安に思っている事を管理者を中心に話を聞く機会をつくり、対応できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の話を聞き、現在利用しているサービスの担当者及びかかりつけ医等から、情報・意見を聞き、どんなサービスが良いか見極め対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が過ごしてこられた人生を大切に、喜怒哀楽を共にして、本人から色々な事を聞いて学び、力になる事が出来るように努め、安心できる関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして利用者様の今の気持ちや気付いた事を伝え、又、ご家族の不安・要望を伺い、共に支え合う関係を作っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の希望に沿えるように外出の機会を設け、馴染みの人や場所との関係が継続でき、関係が途切れず安心できるように支援している。	地域の行事に参加する中で、以前からの知人に会い、その後の面会につながる等、旧交を温める機会もあった。推理小説等、好みの書籍を読んだり、図書館を利用する等の支援も行われている。センター方式の活用を通じて、家族からの情報も得ながら、馴染みの関係性の把握にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく安心して生活できるように、共通の趣味や話が出来るように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気により入院になると、面会にて状態の把握を行う。また、入院中の家族の心配事なども聴きながら、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方など多くの情報を集め、利用者様の希望に沿った生活が出来る様に努めている。	日常の会話や表情、仕草等から、思いや意向の把握に努め、職員間で共有や検討を行っている。センター方式の活用については、家族の協力も得ながら、あらためて情報を整理しているところである。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様・ご家族様より情報を収集し、センター方式を活用して、サービスの活用に生かしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様・ご家族様から情報を得て、一日の過ごし方をセンター方式に記入し、また、日頃の生活状況を見て情報収集し、総合的に状態が把握できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、利用者様やご家族の意向・職員の気づきや意見を収集して話し合い、介護計画を作成している。定期的な見直し、状態の変化に応じてご家族と相談し介護計画を作成している。	センター方式の活用を個別の介護計画作成に結び付けられるよう、あらためて情報の集約に取り組んでいる。これまでの暮らしの継続や家族の役割を盛り込みながら、介護計画の作成に努めている。毎月、モニタリングを実施している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・プランに沿った内容を、個別に記録し情報を共有して、実践・介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の希望に応じ、介護保険の更新手続き・病院受診等の支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の意向や必要に応じてボランティアの協力にて書道、カルタ、読み聞かせ、琴の演奏、紙芝居等の訪問を受けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・ご家族の希望に応じ、病院受診等の支援を行っている。希望に沿えるように、医療機関の確認を行い対応している。協力医療機関への受診や月2回の往診、週1回の看護師による状態管理の支援を行っている。	入居時に、かかりつけ医について確認し、家族との連携を図りながら受診を支援している。また、協力医療機関への受診や定期的な訪問診療が実施され、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態や変化を直ぐに看護師に報告し、協力病院の看護師と相談しながら支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努め、対応している。退院前の説明に同席している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、利用者様・ご家族様の希望を聴き、事業所としての方針を説明、共有しながら出来る限り長い間ホームで暮らすことが出来る様に支援している。	入居時の方針の説明や意向の確認、また、日頃の会話やセンター方式の活用を通じて、本人、家族の意向の把握に努めている。職員の意見を集め、五感で家庭的な雰囲気を感じてもらえるよう工夫する等、一日一日を大切にしながら、出来る限りの支援に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応に備えて、マニュアルを作成		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練を年に2回行っている。それ以外でも月1回自主訓練を行い、非常時スタッフ1人1人がすぐに対応できる様にしている。また、地域の方への災害時緊急連絡の協力を得られるように体制作りをしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、隣接施設や自治会長の参加、協力を得ている。また、月に1回、ボランティア来訪時も含め、事前連絡をせずに自主訓練を行い、課題を明確にしている。緊急連絡網には、自治会長の協力を得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には常に気を付け、記録等の個人情報取り扱いには問題が起きないように、マニュアルに沿って対応している。	気の合う方同士で居室で過ごしたり、好みの書籍を読む時間を過ごす等、個別の時間の流れや居場所の確保、関わりの距離感を意識し、支援が行われている。排泄ケアや入浴時の対応についても、細やかな指導が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに優しく耳を傾け、話を聴くように心がけ、自分で決め納得できるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活のペースに合わせ、声掛けしながら希望に沿うことができるように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服を着用できるよう選ぶことができる方には選んでもらい着用して貰っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握し、温かい出来立てをおいしく食べて頂いている。個々の嚥下状態に合わせて食材や形体に配慮している。下膳は職員と一緒に、茶碗洗いなど出来ることをしてもらい、協力して行っている。	食材は委託業者より届けられ、職員も同じ食卓を囲み、会話や見守りを行いながら食している。引き膳や洗い物をともに行い、賑やかな風景があった。時には回転寿司を食べに出掛けたり、嗜好品の摂取にも柔軟に対応している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者の物を使用、カロリー計算しているため栄養バランスに配慮している。水分は毎食時と10時や15時、また、その間に好みの飲み物、入浴後にはスポーツ飲料、夜間は麦茶を用意して1日1500mlを目安に飲んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず利用者様1人1人に合った歯磨きをして貰っている。義歯の洗浄は、声掛けしたり介助している。義歯は1日1回洗浄液に浸けて清潔を保持している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握して、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。	必要な方の排泄チェックを行い、個別の状況を把握している。トイレでの排泄を基本とし、カンファレンスにてパターンに応じた誘導や排泄用品について細やかな検討が行われている。水分の摂取や記録法も工夫され、服薬だけに頼らない便秘予防に介護力を発揮している。1ユニット5箇所のトイレが設置されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より便秘予防の為水分補給に努め、飲食物の工夫をしたり、散歩をして身体を動かしたり、必要時には腹部マッサージを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	利用者様の希望に沿えるよう、また体調管理をしながら入浴が出来るように支援している。	毎日、入浴準備を行い、少なくとも2日に1回は入浴できるよう、希望や体調、状況等に応じて柔軟に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望や体調に合わせて、自由に昼寝をしてもらったり、夜眠れない方には温かい飲み物を提供したり、必要な場合は主治医と相談して、内服で対応したりと工夫している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容と作用・副作用について薬局からの注意書をスタッフが何時でも確認出来るところに置いてあり、重要性を把握して服薬時の注意を確実にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみやしたいことを把握して、個別に気晴らしが出来るように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に相談したり、1人1人の希望に沿って、買い物やドライブ等が出来る様にしている。	日常的には、個別や少人数にて、隣接する同法人施設も含め、周辺の散策に出かけている。響灘緑地のバラ園に家族とともに出かけたり、花火大会や玄関前での夕涼み会等の外出行事も実施されている。家族の経営する店を訪ねる等、個別の支援も行われている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の希望や力に応じて、お金を所持して使える様に、家族と協力して支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の公衆電話が利用できるように手助けしたり、必要時はご家族と電話連絡ができるように支援している。年賀状や手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に季節の花を飾ったり、行事の写真を壁に貼ったり、リビングの壁に貼り紙で季節感を出して、居心地良く過ごせるように工夫している。	天井が高く、空間の仕切りにも工夫が施され、明るく開放的な共用空間となっている。広いウッドデッキや車椅子のままでも作業できる畑も設けられ、気軽な日光浴も可能となっている。各所にソファや椅子が設けられ、その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや椅子を置き、1人で静かに過ごすことができるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や使い慣れた物を持参して頂き、今までの様に使えるよう配慮して居心地良く過ごせるように工夫している。	掃き出しの窓が設置されている居室には、洗面や筆筒が備え付けられている。仲の良い方同士でプライベートな時間を過ごす為のソファが設置されていたり、仏壇の花を買いに出かける等の支援が行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全体に手すりを取り付け、全体に移動できる様工夫している。		